

恰好つねにある坪皿同事なり、外のひも上より六分三厘のところがあり、下の面上より一寸七分貳厘の所にあり、メン五分、

同蓋 總高九分、さし渡四寸二分三厘、かう臺高貳分八厘、廣壹寸五分二厘、厚壹分、

右塗やう、本椀同事なり、

〔骨董集 上編下〕○ 雛椀 折敷圖

椀は挽物の木地なり、○ 中 丹、緑青にて、松竹の繪あり、京師には明和安永の比までありしよし、繪

びつとおなじく、古き物にこそあらめ、質素にてかへりて雅致あり、

椀高サ一寸一分餘、わたり一寸五分、かねざしをもてはかれり、○ 圖

〔伊呂波字類抄 雜知物〕茶椀。

〔下學集 下器財〕茶椀。

〔撮壤集 中家屋〕茶椀 同字

〔物類稱呼 四器用〕茶碗ちやわん 北國及中國、西國、四國、或は常陸にて、てんもくと云、肥前鍋嶋、奥州二本松にて、いしごきといふ、信州筑摩邊にて、けんぐりと云、此邊の山民は、隣家へ行かふに、茶碗を袂に入行て、其うつわにて、湯茶を飲と也、其ゆへをえらす、

〔大和物語 下〕よしみねのむねさだの少將、ものへゆく道に、五條わたりにて、雨いたうふりければ、○ 中 少將には、ひろき庭に生たるなをつみて、むし物といふものにして、ちやうわんにもりて、○ 下

〔類聚雜例〕長元九年四月十七日、天皇 ○ 後 崩於畫御帳前、○ 中 五月十九日 ○ 中 其後權大納言、新

大納言前大僧正慶命、權少僧都濟祇等、拾御骨、經輔、兼房朝臣等、採折敷祇候、以御骨 一升 奉納茶

壺。壺加納呪砂以眞言書一卷 梵本 結付壺上、以白革、縫、蓋、壺上、以茶、器、一、口、爲、蓋、壺、生、絹、爲、其、緒、